

## 日産メカニックチャレンジ 2022 シリーズスーパー耐久レース 報告

日産メカニックチャレンジは、人財育成プログラムとして参加する日産校学生、全国販売会社 TS の拡大を狙い、2022 シーズンから、スーパーGT GT300 クラスに加え、スーパー耐久レース（以下 S 耐）ST3 クラスにフェアレディ Z にて参戦した。3 月鈴鹿の開幕戦から全 6 戦に参加し、日産校学生 50 数名、販社 TS 11 名がプログラムを経験した。

参加車両「raffinée 日産メカニックチャレンジ Z」は市販車ベースのため、学生、TS の作業領域は広く、国内最高峰レースである「スーパーGT」とは違った経験を実現することが出来、日産メカニックチャレンジ活動の幅を広げることが出来た。

### 1.参加者と成績

レース	日程	サーキット	参加TS	参加学生	順位
Rd.1	3/19-20	鈴鹿		7	6位
Rd.2	6/3-5	富士		8	—
Rd.3	7/9-10	菅生	3	13	3位
Rd.4	7/30-31	オートポリス		7	—
Rd.5	9/3-4	茂木			※ST-3 不参加
Rd.6	10/15-16	岡山	5	8	4位
Rd.7	11/26-27	鈴鹿	4	8	3位
			<b>11</b>	<b>50</b>	

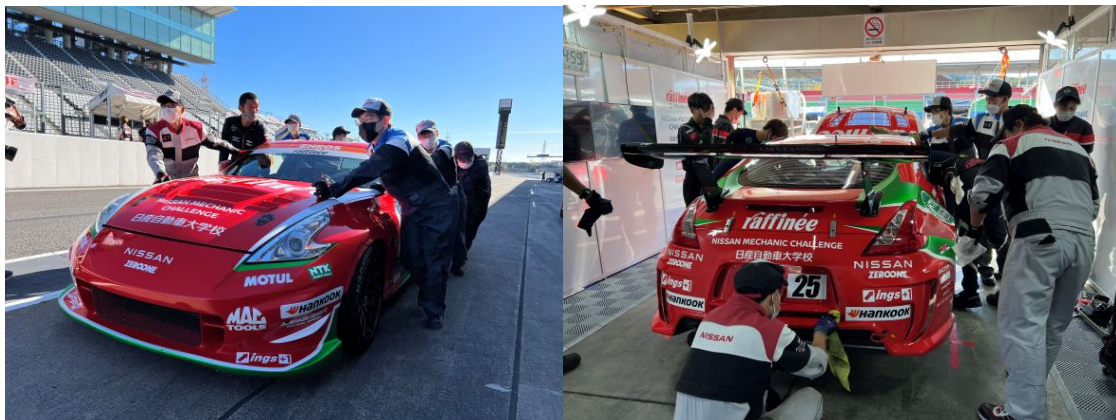
チーム結成初年度であり、車両のセットアップ、ドライバー、メカニックの連携など、課題は多かったが、レース毎にチームで課題を抽出し、共有・解決することで、徐々にチーム力を上げることが出来た。その際、学生、TS のモチベーション高い意識と行動は、チームの活性化に確実に寄与していると実感した。

### 2.教育プログラムとしての S 耐

レース車両の Z が市販車ベースであるため、TS、学生の作業可能領域は広い。実際にはミッション交換、サスペンション調整、ブレーキローター交換、オルタネーター交換、電気回路チェックなど、日常の作業または授業内容が十分に役立つことが多かった。特に現場経験豊富な TS の知識を経験は、レースメカニックにとっても大きな戦力となったことは間違いない。

TSと学生の経験値は異なるが、TSが学生達の指導も行うことで、レースメカニック—TS—学生が連携し、経験を積み上げることが出来た。学生もプロメカニックに臆することなく、積極的に作業に参加することで、より多くの経験を積み上げることが出来た。

さらに、TEAM ZEROONEのレースメカニック達が人財育成活動としての主旨を十分に理解していることから、'育成視点'で学生やTSの指導が実現したものと考えている。

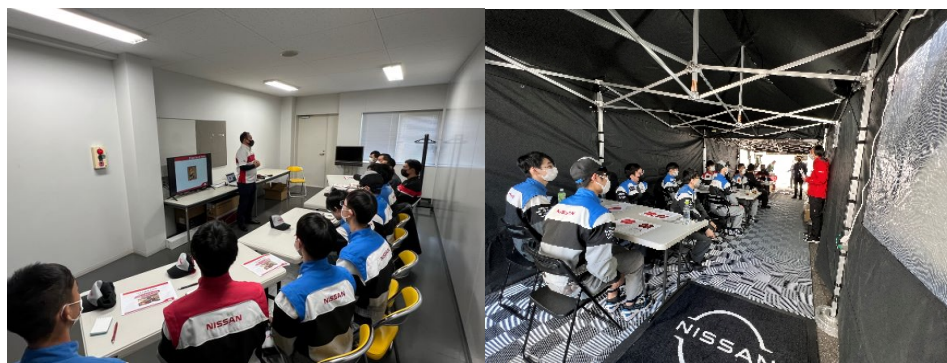


### 3. 車両整備以外へのプログラム拡大

サーキットにおける様々な機会を活用し、以下のプログラムを実施

#### ① パートナー企業特別講習

2022シーズンは、「Motul」「マックメカニクスツールズ」の特別講習を実施。基本編から応用編まで幅広い講義を通じて、職場や学校で学べないことを習得。生きた授業を実施した。



## ② ニスモカスタマーサービストレーラー見学

日産のモータースポーツの中心であるニスモのカスタマーレーラー見学を通じ、サーキットにおけるニスモの役割を勉強した。



## ③ タイヤサービス見学・コントロールタワー見学

S 耐の全てにチームにタイヤを供給するハンコックタイヤサービスを見学。タイヤの組付け、バランス調整などを間近で見学。コンディションの違いによるタイヤの選定などについても学ぶ事が出来た。また、コントロールタワー内の競技委員の仕事も見学。緊張感あふれる現場を経験した。



## ④ 他チーム訪問

他チーム訪問を通じて、「レースに勝つ」という共通の目的であり各チームの取り組みを学ぶ事が出来た。各チーム共に、「学生とTSの育成」という視点で、暖かく迎入れて頂き、チーム、メーカーの垣根を越えたコミュニケーションが実現した。



#### 4.プロモーション

日産メカニックチャレンジの傘の下でのS耐を広くPRすることで、日産校学生の学生募集支援、販社TSのモチベーション向上を狙い、2022シーズンはメインパートナーのラフィーネ様の支援を受け、「Jスポーツ動画制作」を実施。来年度以降、さらに活用の幅を広げて行くことを考える。また、最終戦の鈴鹿では地元三重TVのYouTube配信が行われ、地元出身のドライバーである松田次生さんのMCのお陰もあり、大いに盛り上がる事が出来た。



#### 5.ゲストエリア対応

来場されたお客様に気持ちよく観戦頂けるよう、チームテントを中心としたゲストエリアを用意。SGTのような広いスペースの確保は出来ないが、心のこもった対応を心掛けた。



#### 5.2023シーズンに向けて

2022年、日産の人材育成モータースポーツ活動の原点である「スーパー耐久」にも活動を拡大し、スーパー耐久の特色「参加型カテゴリーの最高峰」を最大限に活かした日産メカニックチャレンジのプログラムを構築し全6戦の活動を実施した。結果、参加TS、日産校学生は、ベース車両が市販車ゆえに現実的にレース車両整備に関わる事ができ、レースプロメカニックが安全管理を実施しながらもチームの一員として信頼・期待され整備を任せられる環境を作り出す事ができた。

2023年に向けて、TEAM ZEROONEは「モータースポーツは人を育てる」という日産メカニックチャレンジのコンセプトをより実現できる環境を目指し、安全管理を最重要課題としながら、参加TS、学生がモータースポーツの実戦でより得るものが期待できるように来シーズンへの準備を進めていきたい。

以上  
TEAM ZEROONE